会長就任にあたっての御挨拶

仁　杉　　巌*

今度プレストレストコンクリート技術協会の会長に御推薦を受け５月の総会において会長に就任致しました仁杉でございます。私は若いころ鉄道技術研究所において鋼弦コンクリートの勉強をし，その後国鉄信楽線の大戸川橋梁でスパン 30ｍ の当時として始めて本格的なポストテンション形式の鉄道橋を計画，設計，施工した経験があります。しかし，その後は国鉄において主として建設関係の仕事をし，国鉄退職後は西武鉄道（株）で鉄道経営にあたるなど，あまりＰＣコンクリートと深い関係があるわけでもありません。ＰＣ技術協会の初代会長故吉田徳次郎先生をはじめ歴代の会長にはそれぞれＰＣコンクリートに深い関係のある学者の方々がなっておられるなかで，私のような門外漢が会長に就任することには私自身には大きな抵抗がありましたが，皆様の御推薦を受けたことは身にあまる光栄でしたのでお受けした次第です。

考えてみますと，歴代の会長が著名な学者の方々であったのに，私のように事業に携っている者が会長として，別の面から協会の事業をながめてみるのもよいかと思っております。

まだ会長として３か月ばかりにしかなりませんので具体的に何をするかという点については明確にすることはできませんが，協会の会報としての「プレストレスト コンクリート」を発刊することは協会活動の最低限の仕事であると思います。

当協会はそれ以外に国際的には FIP の日本の公式窓口として十分活躍しており，それ以外にもＰＣ技術協会として，講習会や研究委員会もありますが，この点もう少し幅広い活動ができるかどうか研究し，実現可能なものについては実施にうつしてゆきたいと思います。

また当協会としましても日本建築学会，土木学会，その他の学協会との連係をどうしてゆくか，これらの点は歴史的経過もあり，なかなかむずかしい点もあるようですが，当協会としての活躍が十分にできるよう考えてみたいと思います。幸い副会長の海上さんは当協会と密接な関係にあるＰＣ工業協会の会長であり，また副会長の梅村先生は日本建築学会の有力者であり，小生も土木屋であり，理事の方々も各方面の有力者なので，御協力を得て，いろいろな難問を解決したいと思っております。

根本的に考えると，学協会というものは会員の方々から会費をいただいて運営していながら，会員との間に連帯感がうすくなっているという欠点があります。私もこの点について，十分考え，当協会の運営に会員の方々の御意見なり御希望なりをくみとり，できれば全会員の方々が協会に参加意識をもつような形にしてゆきたいと念願しております。これを具体化することは言うは易く，実行はむずかしいのですが，できるだけ努力してみたいと思っております。

何を申しましても，会員の方々の御便宜と役員の方々の御協力を得なくては何もできませんので今後とも宜しく御指導をお願い致します。

---

* 第10代会長　西武鉄道株式会社取締役副社長